

## 第2次筑後市教育大綱 基本方針成果動向一覧表(対基準値)

		成果動向							担当	
			A	B	C	D	E	【D-A/A】		
		成果指標名	単位	基準値	H29実績	H30実績	H31実績	目標値	対基準値	
◆基本方針01 ふるさとちくごへの愛を育てるまちづくりの推進										
1	文化財の保護と活用	指定文化財のき損・滅失・亡失・盗難件数	件	4		4	2	0	50.0% 向上	社会教育課
		文化財施設・文化財事業の入場・参加者数	人	8,443		8,443	8,413	8,600	0.4% 低下	社会教育課
◆基本方針02 子育てしやすいまちづくりの推進										
成果指標名										
1	子どもの人権の尊重	児童虐待件数【新規実人数】	件	8	13	8	10	8	25.0% 低下	子育て支援課
成果指標名										
2	ひとり親家庭等の自立支援の推進	ひとり親家庭等の自立支援推進事業の利用者数	人	11		11	12	19	9.1% 向上	子育て支援課
成果指標名										
3	保育サービスの充実・子どもの居場所づくり	保育所等の待機児童数(4月)	人	18	19	18	5	0	72.2% 向上	子育て支援課
		保育所等の待機児童数(10月)	人	15	49	15	4	0	73.3% 向上	子育て支援課
		学童保育所の待機児童数	人	43	45	43	46	0	7.0% 低下	子育て支援課
		一時的な保育ニーズに対応できなかった件数	件	0	不明	不明	11	0	---	子育て支援課
成果指標名										
4	子育て不安の軽減	子どもの発達過程を知っている保護者の割合	%	89.7		89.7	90.0	93.0	0.3p 向上	子育て支援課
		育てにくさを感じた時に対処できる保護者の割合	%	88.0		88	91.1	90.0	3.1p 向上	子育て支援課
		保護者一人当たりの、子育てについて相談できる相手、または相談できる機関の数(配偶者や親族を除く)	人(機関)	1.5	1.0	1.5	1.66	1.7	10.7% 向上	子育て支援課
成果指標名										
5	子どもの健やかな成長の支援	低出生体重児の出生率	%	11.3		11.3	9.39	10.0	1.9p 向上	健康づくり課
		乳幼児健診で要精密検査となった者の受診率	%	87.5	84.3	87.5	85.0	90.0	2.5p 低下	健康づくり課
◆基本方針03 社会を生きぬく力を育む学校教育の推進										
成果指標名										
1	確かな学力の向上	小学6年生の国語、算数(全国学力・学習状況調査)の平均点の指数	pt	103.2	103.3	103.2	102.8	103.0	0.4% 低下	学校教育課
		中学3年生の国語、数学(全国学力・学習状況調査)の平均点の指数	pt	96.3	99.2	96.3	93.4	100.0	3.0% 低下	学校教育課
成果指標名										
2	豊かな心の育成	学校の決まりを守っている小学6年生の割合	%	89.4	93.7	89.4	93.2	90.0	3.8p 向上	学校教育課
		毎日朝食を食べている小学校6年生の割合	%	91.3	93.7	91.3	94.5	93.0	3.2p 向上	学校教育課
		学校の規則を守っている中学3年生の割合	%	91.8	93.7	91.8	92.6	93.0	0.8p 向上	学校教育課
		毎日朝食を食べている中学3年生の割合	%	90.4	91.2	90.4	89.3	92.0	1.1p 低下	学校教育課
成果指標名										
3	健やかな体の育成	小学5年生の体力・運動能力調査の平均点の指数	pt	102.2	101.4	102.2	97.8	103.0	4.3% 低下	学校教育課
		中学2年生の体力・運動能力調査の平均点の指数	pt	101.7	102.5	101.7	101.2	102.0	0.5% 低下	学校教育課
成果指標名										
4	小中連携・地域連携の推進	コミュニティ・スクール設置学校数	校	2	0	2	4	11	100.0% 向上	学校教育課
		1,000人当たり不登校生徒の出現率(全国平均100とした場合)(過去3年平均)	pt	77.0	63.5		34.3 不明	70.0	計算不可	学校教育課
成果指標名										
5	教育環境の充実	学校維持管理及びセキュリティ管理における教育支障件数	件	15		15	4	15	73.3% 向上	学校教育課
		学校トイレの洋式化率	%	29.4	27.1	29.4	30.98	70.0	1.6p 向上	学校教育課
		小学校再編計画決定後の児童数100名未満の小学校数	校	3		3	0	0	100.0% 向上	学校教育課
		電子黒板等設置割合	%	31.7	31.7	31.7	32.5	50.0	0.8p 向上	学校教育課

## 成果動向

担当

## ◆基本方針04 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進

			A	B	C	D	E	【D-A/A】		
		成果指標名	単位	基準値	H29実績	H30実績	H31実績	目標値	対基準値	
1	生涯学習の推進	生涯学習の機会が十分にあると思う市民の割合	%	15.3	16.9	15.3	11.6	17.0	3.7p 低下	社会教育課
		社会教育施設の年間利用者数	人	234,244	201,598	234,244	193,909	240,000	17.2% 低下	社会教育課
		図書館を利用している市民の割合	%	29.1	27.7	29.1	26.7	30.0	2.4p 低下	社会教育課
		成果指標名	単位	基準値	H29実績	H30実績	H31実績	目標値	対基準値	
2	市民への人権教育・啓発	人権啓発事業・講座への初めての参加者の割合	人	23.2		23.2	19.9	30.0	14.2% 低下	人権・同和教育課
		成果指標名	単位	基準値	H29実績	H30実績	H31実績	目標値	対基準値	
3	児童・生徒への人権教育・啓発	「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」に対し「当てはまらない」と回答した中学3年生の割合	%	1.8	1.8	1.8	1.5	1.5	0.3p 向上	人権・同和教育課

## ◆基本方針05 スポーツを通じた健康なまちづくりの推進

		成果指標名	単位	基準値	H29実績	H30実績	H31実績	目標値	対基準値	
1	生涯スポーツの推進	週に1回以上、運動・スポーツをしている市民の割合	%	51.8	55.3	51.8	49.8	50.0	2.0p 低下	社会教育課
		競技会場に行ってスポーツを見る市民の割合	%	30.3		30.3	25.8	40.0	4.5p 低下	社会教育課
		1年間にスポーツボランティア活動をした市民の割合	%	8.0		8.0	5.3	8.0	2.7p 低下	社会教育課
		福岡ソフトバンクホークス連携によるスポーツ関連事業参加者数	人	967	806	967	787	1,000	18.6% 低下	商工観光課
		成果指標名	単位	基準値	H29実績	H30実績	H31実績	目標値	対基準値	
2	青少年教育・体験活動の推進	青少年体験活動に満足している参加者の割合	%	90.0	90	90	95.3	90.0	5.3p 向上	社会教育課

## GIGA スクール構想について

学校教育課

## 1. 国の動き

令和元年 12 月、国が打ち出した GIGA スクール構想は、児童生徒向けの 1 人 1 台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された創造性を育む教育を、全国の学校現場で持続的に実現させる構想。児童生徒 1 人 1 台端末の令和 5 年度までの整備、校内ネットワークの令和 2 年度までの整備をめざし、それぞれに国の財政支援を行うというもの。

その後、令和 2 年 4 月には新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言を受け、GIGA スクール構想を早期実現するための支援などを積極的に推進することが表明され、1 人 1 台端末整備の早期完了のため、令和元年補正で端末整備補助の対象を小学 5・6、中学 1 年生分としていたものを一気に全学年対象とした。

## 【令和 2 年度国の補正予算による財政支援】

- ・ 1 人 1 台端末の早期実現（定額補助：1 台 4.5 万円を上限）
- ・ 障害のある児童のための入出力支援装置整備
- ・ 学校ネットワーク環境の全校整備（1/2 補助）
- ・ GIGA スクールサポーターの配置（1/2 補助）
- ・ 緊急時における家庭でのオンライン学習環境の整備（1/2 補助）

## 2. 市の取り組み

- ① 児童生徒 1 人 1 台端末整備
- ② 校内ネットワーク整備

令和 2 年度に 3,972 台の端末を整備予定、既存の端末とあわせて児童生徒 1 人 1 台配備となる。

ネットワーク改修については、全小中学校に無線 LAN 環境を整備することとし、10 月 12 日に着工、配線工事は 12 月初旬に終了した。これより充電保管庫や無線アクセスポイントの設置・設定作業に移行し、この作業で端末を使用する環境が整うため、このタイミングに合わせて、端末も 1 月中旬より順次配備していく予定。2 月中に端末整備完了の見込みで進めている。

- ③ GIGA スクールサポーターの配置

急速な学校 ICT 化に対応するため、ICT の技術を有する者 2 名を GIGA スクールサ

ポーターとして R2 年 10 月より雇用した。現在、学校コンピュータ支援員とともに、各小中学校でのパソコンを用いた授業や新型コロナウイルス感染症の対策としての遠隔での授業公開等 ICT を活用した新たな取り組みの実施支援を行っている。

#### ④ 休校等緊急時における家庭でのオンライン学習環境整備

小中学校児童生徒の保護者へのアンケートを実施したところ、家庭にインターネット環境（スマートフォン含む）があると回答した世帯は約 94%であった。インターネット環境の無い世帯がインターネット環境を構築する費用を補助するため、筑後市家庭学習環境整備支援補助金を創設した。

### 3. GIGA スクール構想の取組の課題

児童生徒 1 人 1 台の端末整備やネットワーク環境の整備等を進める一方で、そうした環境を活用した教育を実現するには、さらに取り組むべき課題もある。

#### ① 教員の ICT スキル向上

筑後市でも新型コロナウイルス感染症関連の国の補助事業（学びの保障）を活用してデジタル教科書を導入し、既存環境の中でもいち早くデジタル教材を使った授業に取り組んでいる学校もあるが、急速な ICT 化に対して教員全体のスキル向上を図る必要がある。 【※GIGA スクール構想による授業改善に向けた本年度の取り組みについて後述】

#### ② 具体的な活用方法の検討

端末やネットワークを活用するにあたり、通常の授業ではデジタル教科書や動画の活用、情報収集・共有ツールとして活用するほか、遠隔学習や交流学习、家庭学習での活用、不登校児童生徒に対するオンライン授業の実施など活用の可能性は広く、併せて使用者の情報モラル教育の充実といった課題についても取り組んでいく必要がある。

#### ③ 電子黒板等周辺機器の整備

これまで電子黒板は各小中学校のフロアに最低 1 台配置することを基本として整備してきたが、児童生徒 1 人 1 台端末を整備した後の授業を想定した場合、授業における大型提示装置やプリンター増設の必要性が高まっている。本年度より年次計画での電子黒板の追加配備を始めているが、電子黒板に限らず必要に応じて大型モニターを導入するなど、費用面も含めて効果的な周辺機器の整備を検討していく必要がある。

#### ④ 機器更新経費

GIGA スクール構想の前倒し実施による国の財政支援もあり、本年度約 4,000 台の端末整備を行います。今後、端末の維持管理や更新経費に多額の経費が必要となる。費用の縮減や平準化に向けて検討が必要であるとともに、機器更新に対する国の財政支援についても引き続き要望していく。

# G I G Aスクール構想による授業改善に向けた 本年度の取組について

## 1 情報活用能力育成モデル校事業

### (1) モデル校・・・二川小学校

### (2) 校内研修

9月3日(木)、二川小学校で、校内研修を実施。本研修では、新学習指導要領で求められている資質・能力としての「情報活用能力」と「ICTを活用した授業づくり」について主任教育指導主事が講話を行った。



情報活用能力とは、ICTを使いこなす能力だけではなく、右図のように情報を収集して、整理、発信する資質・能力である。そこでICTを活用し、効果的・効率的に学習する力と情報を正しく処理することができるようするが、あくまで各教科等で学ぶべき内容や技能をいかに身に付けるかということが一番のねらいである。あくまで「手段の一つ」「学び方の一つ」として、子供たちに身に付けさせていくことを共通理解した。

**1 情報活用能力とは**

- 必要に応じてICT等を活用する力
- 情報を収集、整理、比較する力
- 情報を分かりやすく発信・伝達する力
- 情報を必要に応じて保存・共有する力

↓  
あくまで手段  
学び方の一つ

**【ねらい】教科の本質・とらえるべき内容**

ICTを活用する上で、必ず身に付けさせないといけないのが情報セキュリティと情報モラルである。情報セキュリティは自分の情報をいかに守るか(パスワード、ID等)、情報モラルは他者の情報を大切にし、いかに責任のある行動がとれるかということである。誰もが被害者にも加害者にもなりえるため、今後、G I G Aスクール構想により積極的にICTを活用する上では大変重要なことであり、様々な教科等で身に付けさせていく必要がある。

### (3) 授業実践

#### ①実践I・・・第5学年 図画工作科「形が動く 絵が動く」

指導者 松尾 聡一郎 先生

授業のねらいは、「動きが連続して見えるアニメーションの仕組みを生かして、形や色などの造形的な特徴を捉えながら、表現を工夫して楽しい作品をつくる」ことであり、目指す子供の姿は「お互いの意見を取り入れながら協力して、見る人にとっても面白いと思えるものをつくりだそうとする子ども。」である。松尾先生は、iPadを使って授業を展開され、子供たちは様々なストーリーをつくりあげることができていた。



導入時にスライドショーによる画像の組合せ方や動かした方について説明し、本時の見通しを持たせる。





前時までに撮影した写真を組み合わせ、ストーリーを考えている。どんなストーリーにするのか、グループで話し合いながら写真を選択していく。



写真を選択して組み合わせたスライドショーを実際に試し、自分たちが考えたストーリーを表現することができたか見直している。



グループで作成したスライドショーの全体での発表会の様子。子供たちの考えたストーリーは様々なアイデアがあり、どれも面白い作品になっていた。

この授業の中で子供たちは「必要な情報を収集する」「必要な情報を選択する」「自分たちが考えと選択して作成した情報を検討し、再度選択し直す」といった情報活用能力を身につけることができている。松尾先生は、iPadの機能を活用され、その機能をもとに上記の資質・能力を子供たちが身につけさせている。子供たちは操作の仕方を身につけるのが早く、様々なアイデアを出し、表現する力が高まっていく姿が見られた。

## ②実践Ⅱ・・・第6学年 総合的な学習の時間「長崎で学ぼう」

指導者 杉本 文音 先生

単元「長崎で学ぼう」で子供たちは、修学旅行に向けて、グループごとに班別行動で訪れる場所や、そのルートについてiPadを活用して調べた。自分たちでインターネットを活用して場所を確認したり、お店の情報を集めたりしているが、情報活用能力を育成するために、多様な手立てをとられている。



グーグルマップで自分たちが訪れる場所やルートを確認する。



ストリートビューを活用し、実際に街中を移動している疑似体験ができる。



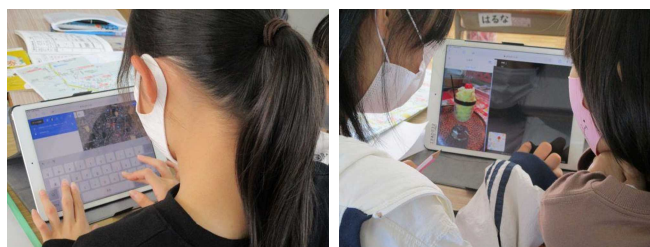
自分たちが使う修学旅行用の長崎の地図にもメモを残していく。

上記の活動において、情報活用能力を育成する上で次のようなよさがあった。

- インターネットを活用し、調べ学習に必要な情報を収集することができている。
- ネット上のマップとストリートビューと紙媒体の地図を比較しながら、自分たちが移動するルートにはどのようなものがあるのか事前に情報を集め、整理することができている。  
※子供たちの会話の中に、地図上の橋が実際にどのような橋なのかストリートビューで確認していた。
- 視覚的に体験することで、実際に長崎を訪れた時に記憶が残っていて安心して活動できる。

ICTの基本的な操作技能は、情報活用能力を発揮するために必要である。様々な教科等で活用しながら身に付けていく必要がある。本学級は日常からICT機器に触れており、基本的な技能が身に付いている。

昼食を検索している際に、食べたいものか？お小遣いが足りるのか？味はどうだろうか？時間は間に合うのか？といった様々な条件の中で考える課程を通して、情報活用能力を育成している。「情報を収集し、比較しながら選択して、決定する」、日常の授業の中でも身に付けていくことができる。



キーワードをローマ字入力して検索しています。基本的な操作技能を身に付けている。

昼食で訪れるお店のメニュー、値段を調査している様子。実際の写真で比較している。



ICTを活用して、地図と比較し、友達と対話しながら計画を立てている。ICTを多様に活用することで、様々な情報が収集できるが、子供たちは上手に整理して自分たちの計画を立てていた。これまでもインターネットで調べたことはあるが、多様な情報を組み合わせている学習を参観したのは初めてである。ストリートビューは生活科の地域探検などにも活用できそうだ。

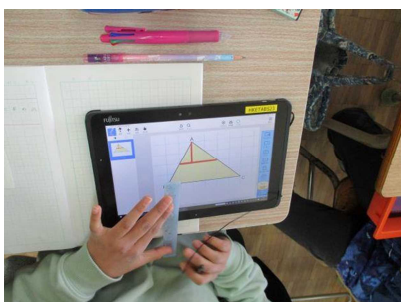
## 2 筑後市情報活用能力育成研修会

(1) 期日・・・令和2年12月3日(木)

(2) 公開授業・・・第5学年 算数科「四角形と三角形の面積」

指導者 松尾 聡一郎 先生

二川小学校の松尾聡一郎先生による第4学年「四角形と三角形の面積」の公開授業をもとに、市内の小中学校の先生方による研究協議を行った。本年度末には一人一台端末が配備される中で、これからの授業づくりを参観された先生方から様々な質問が出され、松尾先生から本時に向けての授業づくりについて説明していただいた。



配布された問題についてタブレットPCの機能を駆使し、自分の考えをつくっている様子。



つくった考えは、教師用タブレットPCに提出する。つくりかえたら再度提出して更新していく。

子供たちは一人一台タブレットPCを活用した。本時が4時間目になるが、子供たちは慣れた手つきで操作している。やはり子供たちはICTを習得するのが早く、様々な機能を自分で見つけ出し、活用している。このような子供たちの力をぜひ生かしていくべきであり、松尾先生による丁寧な指導の成果である。





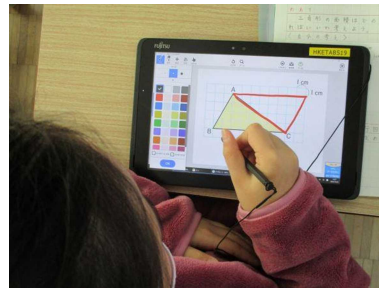
特徴的な考え方を4つにしぼって、全体に説明している。自他の考え方を比較することができる。



新たな問題にも学習したことを生かして挑戦することができている。工夫して三角形の面積を求めていた。



特徴的な考え方を4つにしぼって、全体に説明しています。考え方を比較することができます。



新たな問題にも学習したことを生かして挑戦することができた。工夫して三角形の面積を求めている。

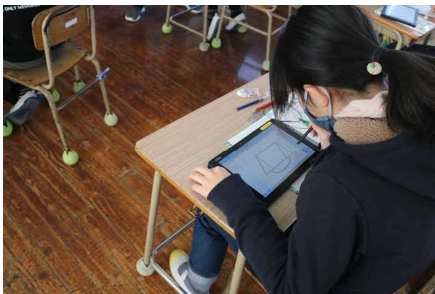
目指した授業実践から次のことを感じられている。

- 子供たちの学習意欲が高まった。どの子も自分の考えを積極的につくった。
- 教師用タブレットPCで子供の評価がすぐにでき、個別指導に有効だった。
- 教師が使いこなしていくことで教材研究が効率的になった。

### 3 電子黒板、デジタル教科書を活用した授業実践

#### 第5学年 算数科「四角形と三角形の面積」

指導者 古川小学校 福島 巧大 先生



タッチペンでタブレットPCに配布された問題に考えを書き込む様子。

左の写真は、教師が配信した平行四辺形の面積をどのようにすれば求めることができるのか、自分の考えをタブレットPCに記入している様子である。タッチペンを活用して、自分の考えを記入している。タブレットPCを活用する良さとして、自分の考えを書いたり、消したりと繰り返すことができることが挙げられる。図形については線をきれいに引くことができるといった機能の良さもあり、子供たちは様々な機能を使いこなすことができていた。

子供たちがつくった考えを先生のタブレットPCへ提出する。全体の考えを出し合うことで自分にはない考えに気付いたり、共通する考え方を整理することができた。また、先生が意図的に4つの考えを板書され、子供たちが考え方を分析しやすくする工夫された。一度に全体の考えが見られる良さと考えを整理するための先生の授業技術が光っていた。

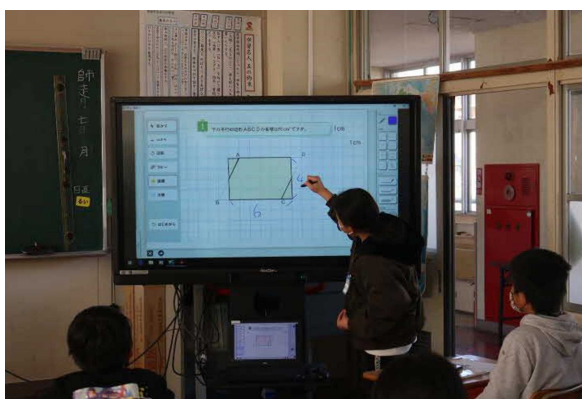
タブレットPCでつくった考えを出し合うとともに、全体交流では友達の考えを説明することで友達の考えを認め、そのよさを自分のものにしていくことができていた。また、ICTの活用になり、考えをつくったり改善したりが容易にでき、子供たちの学習が意欲的になっている。

松尾先生が情報活用能力育成を目標





子供たちから提出された考えを電子黒板で整理している。似た考えに○を記入するなどして分かりやすくしている。



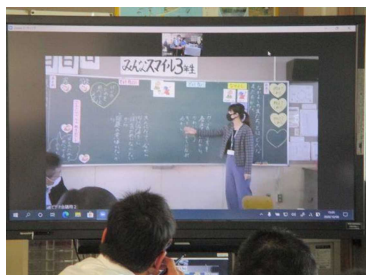
自分の考え方をデジタル教科書の図形に表現している様子。図形を切り取ったり、回転させたりしている。

左の写真は子供たちが提出したノート（考え）を比較して、特徴的なものを整理しているところである。平行四辺形を求めるために、もとの形を切ったり、回転させたりすることで正方形や長方形に変えて面積を求めることができていた。これまでに学習して身に付けている公式を使えるように考えていた考え方を整理、分類している。

右の写真は、代表的な考えについて説明している様子である。電子黒板を使用しているので、画面に直接書き込むことができる。また、切り取った形を回転させながら既習の形に変更させて面積の求め方を考えることができた。大きな画面で考え方を説明することで、教室内の友達に考えを伝えることができたり、互いに考えを共有したりすることができた。また、図形を切り取ったり回転させたりすることができるのは、デジタル教科書の特徴的な機能であり、教師も子供も十分に生かすことができていた。

#### 4 リモートによる教育実践

コロナ禍とうちもあがあるが、リモートを活用した様々な教育実践が繰り広げられている。下にその例を示す。



左の2枚の写真は、小学校教育研究会において、代表授業を別教室で参観する様子である。通常は教室で参観していたが、子供たちの安全を確保するためにリモートで実践された。Webカメラを移動しながら板書の様子（左）や子供の活動の様子（右）をリモートで参観することができた。



左の2枚の写真は、筑後北中学校と柳川高校の留学生の交流の様子である。筑後北中学校1年生が学習してきた英語を活用し、留学生にインタビューしている。中学生にとっては本場の英語に触れることができるとともに、離れた学校とリモートで交流することでこれまでかかった移動時間も短縮することができ、効率的である。

## 筑後市内小学校の学力向上に向けて

### —地域と連携した放課後の取り組みの提案—

放課後教室を設置して、地域と連携し算数の学力底上げを図ることを提案します。

主旨として、古来より「読み・書き・そろばん（計算）」が重視されており、中でも計算力においては、学力差が出やすいとされています。そこで、その計算力を詳しく分けると、たし算・ひき算・かけ算・わり算の四則計算があげられます。この四則計算を学習するのが小学校の1～4年生です。ここでつまずくと苦手意識が生じ、なかなか先に進むことができなくなってしまいます。

今回、筑後市内11小学校の算数の過去5年間の平均点、福岡県の平均点、全国の平均点を棒グラフで作成して比較しました。

筑後市は結果として悪くありませんが、学年や年度によって差が出ています。しかし、この結果は安定した点数ではありません。

そこで、この学力差を無くすために、地域の皆さんに協力していただき、放課後教室を各学校に設置し、算数の底上げを図りたいと考えます。

最後に、学校の授業と放課後教室で、地域の方の個別指導による分かる授業により、相乗効果を発揮し学校生活が楽しくなるとともに、学力向上につなげていければ幸いです。

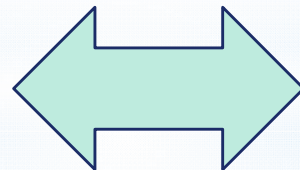
# 筑後市内小学校の学力向上に向けて

ー地域と連携した放課後の取り組みの提案ー



# 筑後市の実態

筑後市平均  
(市内11校)  
5年生・6年生

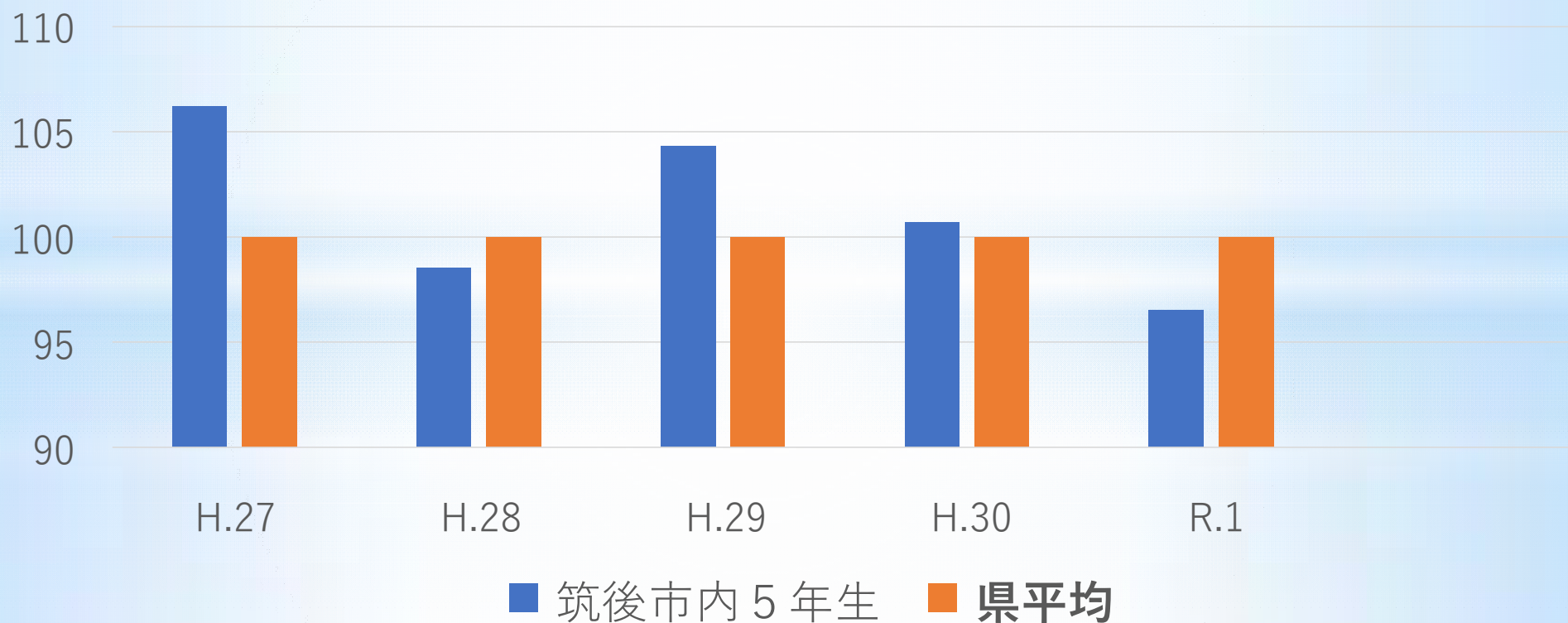


福岡県平均  
全国平均

過去5年間

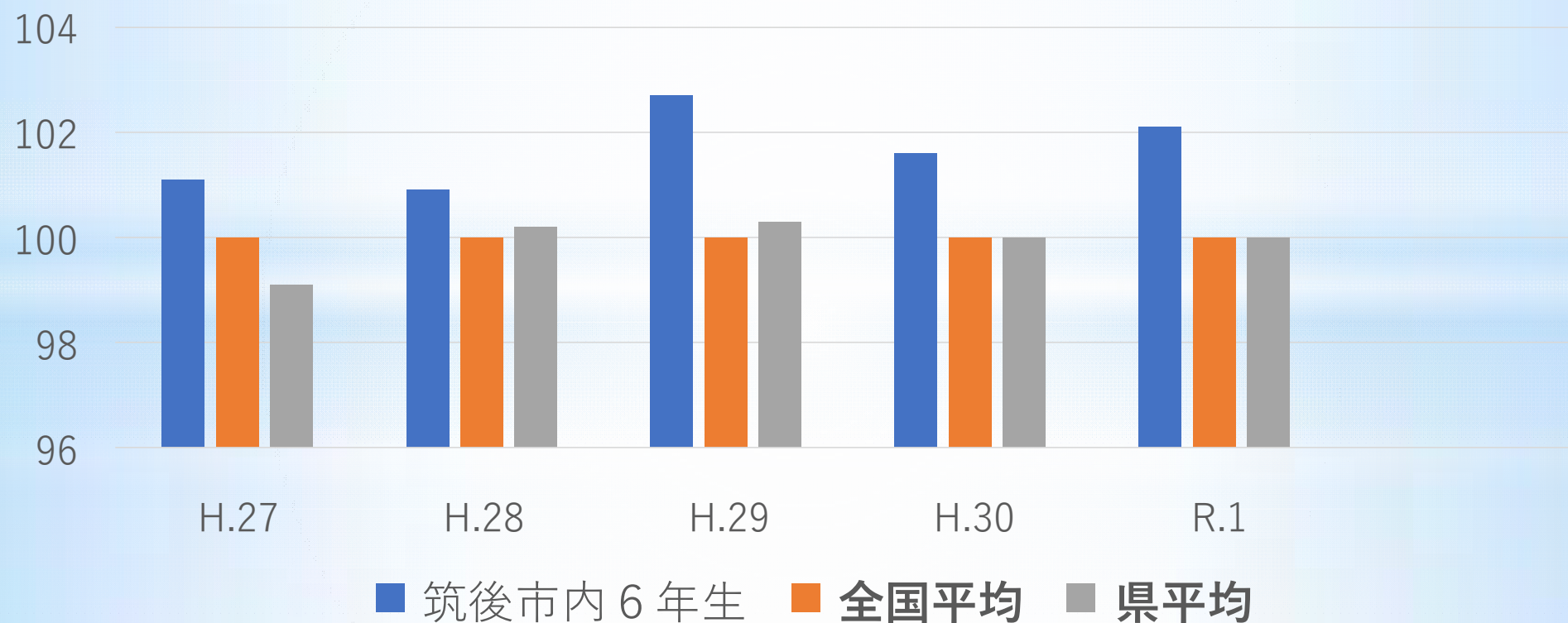


# 福岡県学力調査（算数）





# 全国学力状況調査（算数）





# 学校訪問

小学校:11校、 中学校:3校

## 1、授業参観及び校内視察

- ・授業参観 各教室

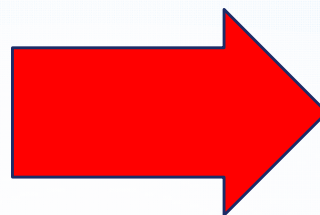
## 2、学校経営部会

- ・学校経営ビジョンについて
- ・学校経営の具体化について
- ・主幹教諭としての取り組みについて

## 3、指導助言及び感想

## 小規模校・大規模校

全ての子ども  
(苦手な子ども)



分かる授業  
(丁寧な指導)

先生の頑張り！

：教具・教材の工夫(先生の手作り)

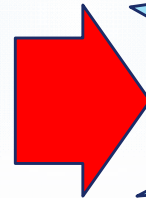
：学年に合った、分かりやすいきれいな板書

：基礎・基本の定着に十分な時間が足りない  
(学習で取り扱う問題が少ない)



## 指導技術の継承

教員の大量定年退職  
(ベテランの先生)



若手教員の増加  
(若手の先生)

働き方改革 や コロナ禍の影響

(予期せぬ事態が発生)

教育現場では

学習指導以外の仕事

児童・生徒の**生命**を第一



# 学習支援員・スクールサポーターの配置

- ・子どもたちに関わる時間が増えた
- ・働き方改革として非常に効果的



- ・年度途中からの配置
- ・学校にとって強力な人材



# 松原小学校「学び道場」

目的：児童の基礎的・基本的な学力の向上や学習習慣の定着を図るため。

## 開設時期

：平成29年1月～3月

：毎週金曜日の放課後（15：15～16：00）

平成29年6月より開始（運動会終了後）

## 対象学年

：3年生・4年生全員

：算数（主に基礎・基本問題）

## 活動スタッフ

：地域の皆さん・教員経験者

：久留米大学の学生さん（令和元年度）

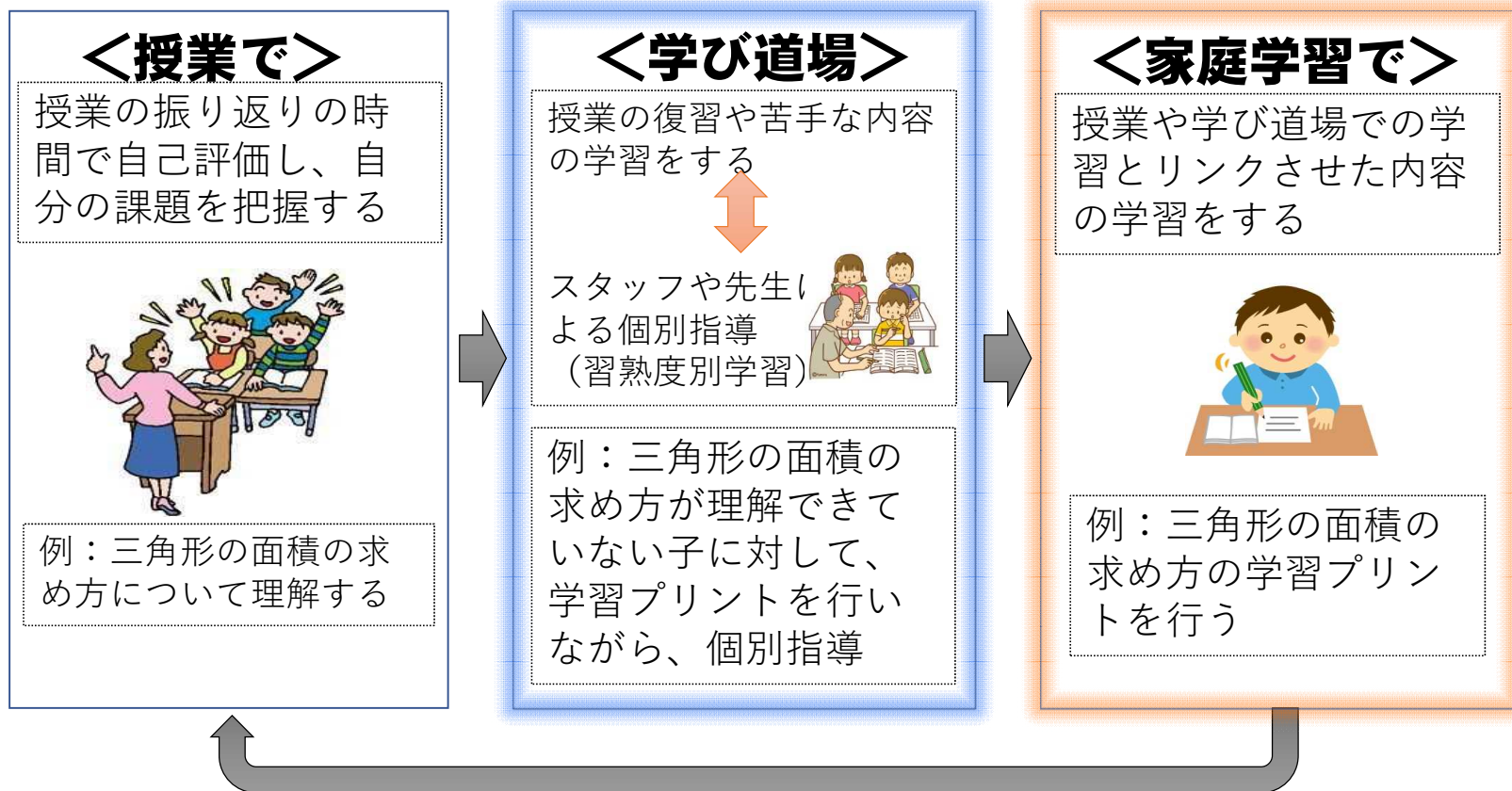


#### 4 「学び道場」の内容と方法

学習内容

算数 (主に基礎・基本問題 活用問題)

授業⇒学び道場⇒家庭学習をリンクさせて主体的な家庭学習を！



# 学力定着に向けての三段階学習法

- 1、授業で学習して、理解する。
- 2、学び道場で、授業で理解した内容を反復練習する。
- 3、宿題で同じ内容を、再度練習する。

4 「学び道場」の内容と方法  
学習方法

**打ち合わせ  
(14:45)**

※**認** 教頭・主幹教諭が  
学習支援スタッフに  
学習内容及び、分担  
について説明する。

★**内容及び支援方法についての確**

**打ち合わせの内容**

**分担**・・・どの学級で指導していただくか

**学習内容**・・・学習内容と指導のポイント  
・児童のつまずきはどこか  
・この問題をよくみてほしいなど

**活用問題について**・・・活用問題の解説と、  
アドバイスのポイント





「学び道場」の内容と方法

学習方法

## 「学び道場」の流れ

**打ち合わせ**  
**(14:45)**

★内容及び支援方法についての確認  
※教頭・主幹教諭が  
学習支援スタッフに  
学習内容及び、分担  
について説明する。



**学 習**  
**(15:05～15:50)**

- 個別指導を要する児童は音楽室で  
(指導者：1, 2年生担任など)



- その他は、各教室での個別指導  
(指導者：担任・学習支援スタッフ)



**反省 (振り返り)**  
**(15:50)**

★今日の学習支援の  
振り返り  
※学習状況について  
※次回の学習の連絡



# 分かる授業

学校生活が楽しい

授業に満足できた

授業が分かるようになった

分からないところがどこか分かった



## コミュニティ・スクール

松原小学校	平成30年4月1日
水田小学校	平成30年4月1日
下妻小学校	平成31年4月1日
古川小学校	平成31年4月1日
筑後小学校	令和 2年5月1日
西牟田小学校	令和 2年5月1日

## コミュニティ・スクールと、他の学校の違い

- 1、法律をもとに、市がコミュニティ・スクールに指定し、「学校運営協議会」が設置されていること。
- 2、学校運営に当たって、保護者や地域の方の参画が仕組みとして保障されていること。
- 3、一定の権限（運営の基本的な方針について承認したり、学校運営に関する意見を述べたりする権限）が付与されていること。



# 安定した確かな学力の定着



- ：学校と地域が連携した放課後の取り組みで、学力向上を図る。
- ：先生方の負担の軽減。



ご清聴ありがとうございました